

いぶりの森づくり

胆振の概況2018



- 管内の森林面積は、253千haで総土地面積の68.4%、全道森林面積の4.6%を占めています。また、森林蓄積量は29,533千m³で、全道森林蓄積量の3.7%を占めています。
- 管内の森林の構成は、人工林が76,990ha、天然林が165,742haとなっています。また、人工林では、大半を占めるトドマツ、カラマツ類が成熟期を迎えており、地域材としての利用が期待されています。
- 管内は、道内の木材・木製品の輸入拠点となっており、室蘭港、苫小牧港の2港で、丸太の62.1%、製材の98.1%、チップの69.8%が輸入されています。
- 管内の森林づくりは、道が平成29年3月に策定した新たな「北海道森林づくり基本計画」に基づいて進められており、「森林資源の循環利用の推進」と「木育の推進」を柱として、森林資源の循環利用による林業・木材産業の成長産業化を加速することとしております。

◇森林資源の循環利用の推進

「植えて、育てて、伐って使って、また植える」のもと、計画的な森林の整備・保全を進め、森林の持つ多面的機能の発揮と林業・木材産業の健全な発展を実現します。

- ・着実な再生林を図るため、優れた苗木の増産や、造林、下刈りに係る作業の効率化・軽労化を進めます
- ・原木の安定的な供給体制の構築を図るため、森林施業の低コスト化などにより、計画的な伐採を進めます。
- ・林業事業体を育成するため、森林づくりを担う人材の育成・確保や経営体質の強化を図ります。
- ・地域材の利用促進を図るため、様々な分野で地域材の需要拡大・創出、木材加工流通体制の整備を進めます。

◇木育の推進

企業やNPOなどの民間、教育関係機関など多様な主体と連携した木育活動に加えて、子育て世代や森林への関心の薄い層などへの木育活動を進めることにより、道民との協働による森林づくりを実現します。

- ・木育マイスターと連携した木育活動や商業地でのイベントを実施し、木育への道民の理解を促進します。
- ・子育て世代とその子どもに対する木育活動を重点的に実施します。

◎木材関連生産量

製材	チップ	素材	木質ペレット
85千m ³	164千m ³	159千m ³	2,880トン

(林産関係調査及び、林務課資料：平成28年度実績)

◎木材・木製品輸入量

区分	丸太	製材	チップ
釧路・苫小牧港(A)	54千m ³	310千m ³	826千トン
全道(B)	87千m ³	316千m ³	1,184千トン
A/B(%)	62.1	98.1	69.8

(北海道木材貿易実績：平成28年度実績)

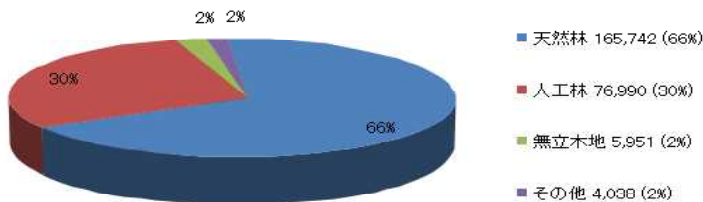
◎特用林産物生産量

区分	生しいたけ	その他きのこ	木炭
胆振管内(A)	2,263トン	4,852トン	153トン
全道(B)	7,613トン	11,082トン	1,275トン
A/B(%)	29.7	43.8	12.0

(北海道特用林産物統計：平成28年度実績)

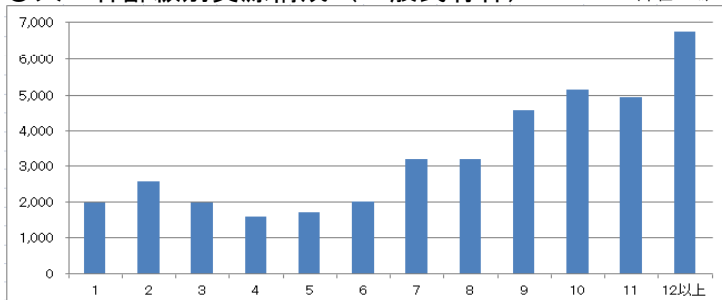
◎林種別森林面積

(北海道林業統計：平成29年4月1日現在 単位：ha)



◎人工林年齢別資源構成 (一般民有林)

(単位：ha)



※年齢級=5年ごとの林齢

(振総合振興局林務課資料：平成29年3月31日現在)

◎森林面積

(単位：ha)

区分	面積
森林	252,720
国有林	100,503
森林管理局所管	99,101
その他国有林	1,402
民有林	152,218
道有林	32,666
市町村有林	16,315
その他民有林	103,237
その他	116,984

(北海道林業統計：平成29年4月1日現在)

◎樹種別森林蓄積量

(単位：千m³)

樹種	蓄積量 (千m ³)
針葉樹計	13,534
トドマツ	5,511
エゾマツ	824
カラマツ類	5,851
アカエゾマツ	599
スギ	34
ヒノキアスノ(ヒノ)	0
その他	715
広葉樹計	15,999
ナラ類	2,662
カンバ類	3,145
シナノキ	1,663
カエデ	2,016
ブナ	2
ニレ	204
ハリギリ(センキ)	279
タモ類	362
カツラ	243
その他	5,423
合計	29,533

(北海道林業統計：平成29年4月1日現在)

◎保安林指定面積

(単位：ha)

区分	面積
水源かん養保安林	123,485
土砂流出防備保安林	22,222
土砂崩壊防備保安林	559
その他保安林	1,674
合計	147,940

(北海道林業統計：平成29年4月1日現在)